



いずみの里



清水小宣言 「さわやかなあいさつをかわします」「進んで人のために働きます」「友だちを大切にします」

「感謝」と「決意」のバトンをつなぐ ― 6年生を送る会を終えて―

響き合う歌声、受け継がれる「清水小宣言」

暦の上では春とはいえ、まだ寒さの残る2月20日。本校の体育館は、それまでの冬の静寂を吹き飛ばすような、熱気と優しさに満ち溢れていました。全校児童が心を一つにして創り上げた「6年生を送る会」。今年度のスローガン「流れ星にいずみっこの思いをのせて！中学星へレッツゴー！」のもと、笑いあり、涙ありの感動的なひとときとなりました。

この会は単なるお別れ会ではありません。1年間、共に学び、遊び、掃除や行事で助け合ってきた「いずみっ子」たちの、仲間作りの集大成です。

下級生からの「ありがとう」：笑顔と工夫が弾ける出し物

会の前半を彩ったのは、1年生から4年生による心のこもった出し物の数々です。どの学年も「大好きな6年生を笑顔にしたい」という一心で、今日まで練習を重ねてきました。

ステージでは、6年生が歩んできたこれまでの道のりを振り返る「思い出クイズ」や、流行の楽曲に合わせた躍動感あふれるダンスが次々と披露されました。クイズの正解が発表されるたびに歓声が上がり、一生懸命に踊る下級生の姿に、6年生も自然と目を細めて手拍子を送る一。そんな温かな交流が会場のあちこちで見られました。



単なる発表を超えて、そこには「今まで優しくしてくれてありがとう」という真っ直ぐな感謝の気持ちが溢れており、参加した誰もが幸せな表情で楽しむ、いずみっ子らしい一体感が生まれていました。

次代のリーダー、5年生の躍進

今回の会を陰で支え、見事にプロデュースしたのが5年生です。企画の段階から「どうすれば6年生が喜んでくれるか」を考え抜き、当日の進行や会場装飾、スローガンの作成など、学年全員がそれぞれの役割で大活躍しました。

きびきびと動く姿、下級生を優しく誘導する姿には、まもなく最高学年になるという自覚が満ち溢れていました。この「6年生を送る会」という大きな壁を乗り越えたことで、5年生はリーダーとして一回りも二回りも大きく成長したと感じています。

6年生が残した「群青」の調べ

それに応える6年生の姿は、まさに下級生の模範となるものでした。お礼のメッセージとして披露された合唱曲「群青」。

♪「またね」と手を振る いつもの夕暮れ♪

♪あの日と同じ 変わらない空の下で♪

体育館に響き渡る透き通った、そして力強い歌声。歌詞の一言一言に、清水小学校で過ごした6年間の誇りと、仲間への思い、そして未来への決意が込められていました。静まり返った会場で、その歌声に涙を浮かべる下級生や教職員の姿もありました。

伝統の継承：清水小宣言の引き継ぎ

会の終盤、最も象徴的な場面が訪れました。いずみっ子全員が目指すべき姿として掲げている「清水小宣言」の引き継ぎです。

6年生の代表から5年生へ。これまでの伝統と、清水小学校をより良くしていこうという情熱が、言葉と共に手渡されました。重みのあるバトンを受け取った5年生の引き締まった表情は、これからの本校を安心して任せられると感じさせてくれるものでした。



結びに

「6年生を送る会」を終えた子供たちの顔は、誰もが幸せな表情で輝いていました。一人ひとりの力が結集したとき、これほどまでに温かな空間が生まれるのかと、改めて子供たちの持つ可能性に感動させられました。

卒業まで残りわずか。6年生には、この「流れ星」に乗せたみんなの思いを胸に、自信を持って「中学星」へと羽ばたいてほしいと願っています。そして在校生は、受け継いだバトンを大切に、さらなる「いずみっ子」の絆を育んでまいります。

保護者の皆様におかれましては、これまで子供たちを温かく見守り、支えてくださったことに深く感謝申し上げます。